

港湾振興便り



2025. 10

第221号

*:**

目 次

*::~

1 ポートエッセイ ― 国民の命と暮らしを守り抜く ―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 官民共同の「若手技術者発表会」を開催しました

(北陸地方整備局 港湾空港部)

- 東京湾大感謝祭 2025 を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

- 「パワステがまごおり 2025」に出展しました

(中部地方整備局 三河港湾事務所)

- 新宮港に飛鳥Ⅲが初めて寄港しました！

(近畿地方整備局 港湾空港部)

- 「2025 志布志みなとまつり」にてパネル展を実施

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

3 お知らせ

- ◇イベント名: 宇野港みなと親子学習会

:

1 ポートエッセイ ― 国民の命と暮らしを守り抜く ―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

:

先般、自民党港湾議員連盟総会に、日本港湾振興団体連合会の会長として出席した。挨拶では「各港湾地域において、地域経済や産業を支える港湾の機能強化、大規模災害への対策など、必要な港湾整備はまだまだある。それぞれの課題に添えていかなければならない。」と述べ、出席議員の方々にさらなる支援をお願いした。総会は令和8年度港湾局関係予算概算要求の説明があり、予算確保に向けて結束を強める会合となった。

会議中、三菱商事と関係会社が洋上風力発電計画から撤退することについての説明もあった。洋上風力発電は「国家プロジェクト」として、環境負荷が少なく地域の反対も比較的少ない「切り札」的存在として推進されてきた。しかし、資材価格の高騰、円安、金利上昇などにより、建設費が当初の想定以上に膨らみ、採算が取れなくなったという。計画されていた地域への影響も大きい。

新潟港でも、洋上風力発電事業開始に向けて基地港湾の整備が進められている。国の脱炭素戦略や地域振興に直結する大切な事業だけに、今後の推移を注視していきたい。

また、その日は内閣府へ出向き、防災庁設置の要望書を提出した。国では南海トラフ地震や首都直下地震など国難級の災害発生に備え、「防災立国」の実現に向け、2026年度の防災庁設置を目指している。国難級の災害が発生した際にも必要な国家・社会機能を維持するためには、平時からの事前防災の徹底だけでなく、首都圏を含む太平洋側との同時被災リスクが低い地域が代替機能を果たすことが重要である。新潟市は、新潟地震や能登半島地震からの復旧・復興の経験、さらに首都圏とのアクセスの良さや東日本大震災での救援実績を有することなどをアピールしてきた。

近年、自然災害が頻発化・激甚化し、「天災は忘れる暇もなくやってくる」時代となった。台風はかつてない勢力で襲来し、豪雨は数時間で街を水没させ、地震は予測不能な形で社会基盤を揺るがす。

「国民の命と暮らしを守り抜く」ことを究極の使命とし、災害に強い社会の構築を目指す国にとって、防災行政の強化は重要であり、防災・減災、国土強靱化の推進に向けたさらなる取組が必要である。

:

2 トピックス

*:

●官民共同の「若手技術者発表会」を開催しました

(北陸地方整備局 港湾空港部)

令和7年10月2日(木)、北陸地方整備局港湾空港部は(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部との共催で「若手技術者発表会」を開催しました。良好な社会資本整備を持続的に行うにあたり、官民共通の課題である「担い手確保」や「働き方改革」等への対応に関する検討を目的として実施しているものです。

発表会では、それぞれが携わった工事や業務等における工夫や課題対応などが報告され、その後の聴講者からの質問に対しても、それぞれの経験に基づいた回答がなされるなど、活発な質疑応答が行われました。

当日は本局会場とWEBでの参加を合わせ、北陸地方整備局から約60名、日本埋立浚渫協会のほか4団体から約100名の計約160名が参加し、関心の高さがうかがえました。

発表後、模範となる優秀な発表者2名を『優秀賞』として表彰する他、特別賞2名、奨励賞3名がそれぞれ表彰されました。若手技術者の研鑽と、官民相互の理解を深めることで今後の北陸の港湾・空港の牽引役となっていくことが期待されます。



若手聴講者からの質問



記念撮影

●東京湾大感謝祭 2025 を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

9月27日(土)、28日(日)に東京湾再生への関心をもっていただくためのイベント「東京湾大感謝祭2025」を横浜市役所アトリウムで開催いたしました。今年で 13 回目の開催となり、去年より 2,000 人多い約 12,000 人の方々に来訪いただきました。

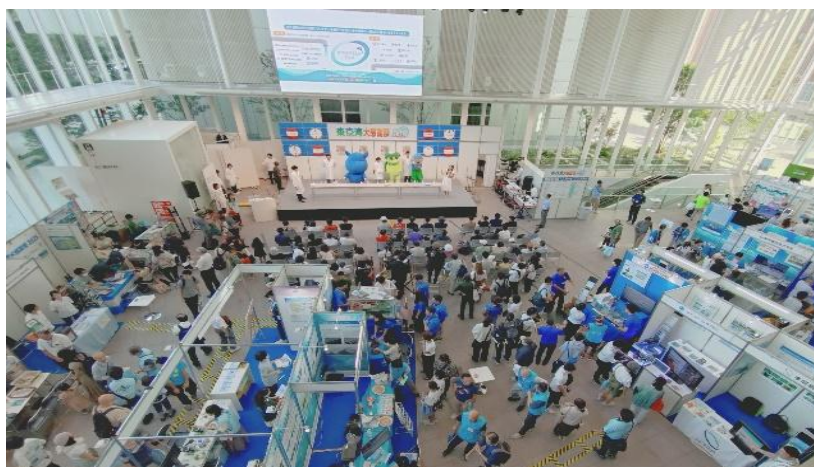
オープニングセレモニーでは脇雅昭参議院議員のほか、国土交通省の安部賢港湾局長、横浜市の平原敏英副市長よりご挨拶がありました。さらに小池百合子東京都知事、黒岩祐治神奈川県知事、熊谷俊人千葉県知事によるビデオメッセージをいただきました。

会場では、「東京湾を楽しむ」をテーマに、東京湾の魅力を紹介するステージのほか、東京湾再生に取り組む様々な企業・市民団体・行政機関による 40 以上のブース展示や東京湾の食材を活かしたキッチンカー・売店など、多くのコンテンツを楽しんでいただきました。

関東地方整備局は、ブースでのパネル展示や東京湾再生の取り組みの動画上映、マスコットキャラクターの出演等でイベントを盛り上げました。



左から寺元敏光東京湾大感謝祭実行委員長、佐々木淳東京湾再生官民連携フォーラム議長、脇雅昭参議院議員、安部賢国土交通省港湾局長、平原敏英横浜市副市長



会場内のにぎわい

●「パワステがまごおり 2025」に出展しました

(中部地方整備局 三河港湾事務所)

9月20日、21日の2日間にわたり、モータースポーツを活用した地域振興及び「全日本ラリー選手権 RALLY 三河湾 2026」のプレイベントとして愛知県蒲郡市にて「パワステがまごおり 2025」が開催されました。

ラリーカーによるデモ走行やはたらく車の展示等が行われるなか、当事務所では、主要貨物の完成自動車の動向など、三河港を紹介するパネル展示や、子供向け体験コーナーの『お弁当作り』を通して、普段食卓に並ぶ食べ物などが海外から船を通じて運ばれていることを説明し、港の重要性を知っていただきました。



お弁当作り体験



パネル展示

●新宮港に飛鳥Ⅲが初めて寄港しました！

(近畿地方整備局 港湾空港部)

令和7年7月に就航した郵船クルーズとして34年ぶりの新造船、日本船籍では最大の52,265GTとなる「飛鳥Ⅲ」が9月1日、和歌山県・新宮港に寄港しました。

寄港時には岸壁で歓迎セレモニーが開催され新宮港が所在する新宮市・田岡市長から歓迎の言葉とともに記念のプレートと地酒が贈られました。

約200人の乗客を乗せた今回のクルーズは「夏の高松・熊野クルーズ」と題され、乗客は世界遺産である熊野速玉大社や那智の滝を巡り名物のマグロを昼食としたツアーに参加するなどして過ごし同日横浜港へ向け出発しました。

飛鳥Ⅲは今年11月と12月にも新宮港に寄港する予定です。



新宮港に寄港した『飛鳥Ⅲ』



歓迎セレモニー

●「2025志布志みなとまつり」にてパネル展を実施

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

令和7年9月21日(日)に「2025志布志みなとまつり」が開催されました。志布志みなとまつりは鹿児島県志布志市で毎年開催される人気イベントです。当日は地元飲食店等による屋台村やキッズダンス、ちりめん太鼓などの演芸が開催され最後には約1万発の花火が打ち上げられました。

志布志港湾事務所では、マリン館(サンポートしづしアピア)においてパネル展示を実施しました。

志布志港に関するパネルの展示やしづし幼稚園の園児52名が描いてくれた志武士ししまるのぬりえの展示を行いました。また、同会場では受注者である山佐産業(株)が来場者に対して同様のぬりえができるようにブースを用意するとともに、熱中症対策として塩タブレット等の配布も行われました。

志布志港湾事務所では、今後も多くの方々に志布志港に興味を持っていただけるよう、イベント等を通じて志布志港のPRを行ってまいります。



志布志港に関するパネル展示

しづし幼稚園の園児によるぬりえ

受注者によるぬりえコーナーブース

受注者による塩タブレット等の配布

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

◇イベント名：宇野港みなと親子学習会

【場 所】岡山県玉野市 産業振興ビル 3階 技術研修室

【問合せ先】中国地方整備局 宇野港湾事務所

電話:0863-33-5007/FAX:0863-33-9010

E-mail : pa.cgr-unokouwan@mlit.go.jp

* : * : * : 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 : * : * : * * : * :

TEL:03-5776-0630 FAX:03-5776-0631

[illegible]